

2015 年 11 月 4 日今世紀最大の IPO、日本郵政グループの株式上場が決定！  
『“まやかしの株式上場”で国民を欺く 日本郵政という大罪』  
郵政民営化の設計図を書いた元財務官僚の高橋洋一が「買ってはいけない」と緊急提言！  
グローバルスタンダードに反する、史上初の「親子同時上場」へ警鐘を鳴らす  
(著者)高橋洋一

〈価格〉1,300 円＋税 〈発売日〉2015 年 10 月 21 日 〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区:代表取締役社長 唐津隆)は、2015 年 10 月 21 日に『“まやかしの株式上場”で国民を欺く 日本郵政という大罪』を発売いたしました。

日本郵政グループは、2005年の郵政民営化から10年、今や、従業員数約 22 万人、総資産約 300 兆円、連結売上高約 14 兆円という世界最大級の企業群となりました。そのうちの日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険の同時株式上場が来たる 11 月 4 日に予定されています。当初売り出し総額が約1兆 4000 億円に上るともいわれる、まさに 1987 年の NTT 上場以来となる大型上場に、市場では期待の声が高まっています。

しかし、日本郵政グループの経営の実態、そして将来性について、民営化された結果等、不明瞭な部分も多く、多くの人はその実体を把握しておりません。そこで本書では、そうした疑問に答えるべく 2005 年当時の郵政民営化の設計図をつくった、当事者中の当事者である元財務官僚の高橋洋一氏が、日本郵政の知られざる内情、諸問題を明らかにしていきます。具体的には、「通常の銀行の稼ぎ頭である『貸付』が不可であること」、「ゆうちょ、かんぽとも運用先の大半は超低金利の国債であること」、「魅力ある保険商品の開発能力がないこと」、「天下り官僚たちが未だ要職を占め続けること」といった問題を指摘しています。更に、今回日本では至上初の試みとなる「親子同時上場」(親会社が日本郵政で、子会社がゆうちょ銀行とかんぽ生命保険)に関しては、親会社が子会社の経営を自分の都合の良い形で進めることで、子会社の株主が不利益を被る可能性があり、「世界基準に反し、内輪ロジック優先」と厳しく批判しています。また、そうした問題の構造的な原因は「無知な政治家」と「狡猾な官僚」によるずさんな政策だとし、昨今話題となった新国立競技場問題との類似性も指摘しています。TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)をはじめとする世界的な経済の大変動が進むなか、われわれ日本人は何をどう考えればよいのか。郵政上場という今世紀最大の IPO(新規株式上場)を目前に控えた、今こそ知っておくべき「真実」がここにはあります。



## 〈本書の構成〉

### 第1章 日本郵政株を買ってはいけないあまりにもシンプルな理由

民営化から 10 年、日本郵政の真の実力／内輪のロジック優先の「親子上場」という愚

### 第2章 なぜあのとき、郵政民営化が必要だったのか

郵政、大蔵ベッタリという過ちの始まり／官から民へ、カネの流れを変えよ！

### 第3章 ここまでやらなければ郵政民営化は達成できない

目指すは世界に通用する民営郵政グループ／役人の飽くなき執念とプログラミング対決／郵便事業の衰退を救う手は本当にないのか？

## 第4章 改革の中身から透けて見える政治家の質、官僚のレベル

政治家に必要なたった一つの大事な資質／信念なき政治の犠牲者はいつも国民という哀しい真理

## 第5章 この国を 100 年以上蝕み続ける“お上信仰”という病

社会閉塞を自ら招く「人民は弱し、官僚は強し」観念／新国立競技場問題も改革退行もおかしなことには必ずワケがある

著者：高橋洋一（たかはし・よういち）

嘉悦大学教授、株式会社政策工房会長。1955 年東京都生まれ。都立小石川高等学校(現・都立小石川中等教育学校)を経て、東京大学理学部数学科・経済学部経済学科卒業。博士(政策研究)。1980 年に大蔵省(現・財務省)入省。大蔵省理財局資金企画室長、プリンストン大学客員研究員、内閣府参事官(経済財政諮問会議特命室)、内閣参事官(首相官邸)等を歴任。1990 年代に「財投改革」に携わった後、小泉内閣・第一次安倍内閣ではブレーンとして活躍。「郵政民営化」の制度設計、「政策金融民営化」、「霞が関埋蔵金」の公表や「ふるさと納税」「ねんきん定期便」など数々の政策を提案・実現してきた。2008 年退官後、現職。『さらば財務省！』(講談社)で第 17 回山本七平賞受賞。他に『日本経済の真相』(中経出版)、『官愚の国』(祥伝社)、『アベノミクスの逆襲』(PHP 研究所)、『【図解】ピケティ入門』(あさ出版)など著書多数。

### 《 お問い合わせ先 》

株式会社ビジネス社 広報担当：松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : [matsuyapress@gmail.com](mailto:matsuyapress@gmail.com) 携帯 : 090-7261-1982

TEL 03-5227-1602/FAX 03-5227-1603